



特233

145

安喜雄著

有毒植物

法社
人團
中央
獸醫
會

始



特233
145



飯塚安喜雄著

有毒植物

法社
人團
中
央
獸
醫
會



有毒植物

目次

一、石蒜(ヒガンバナ)科.....	二
二、百合科.....	四
三、蘭科.....	六
四、百合科.....	六
五、天南星(テンナンショウ)科.....	九
六、禾本科.....	一三
七、桔梗科.....	一四

八、玄參(ゴマノハグサ)科.....二六

九、茄 子 科.....二七

一〇、馬錢(マチン)科.....二六

一一、石南(シヤクナゲ)科.....二七

一二、繖 形 科.....二八

一三、瑞香(チンチヨウゲ)科.....二八

一四、衛矛(ニシキギ)科.....二九

一五、漆(ウルシ)科.....二九

一六、毒空木(ドクウツギ)科.....三〇

一七、毛茛(ウマノアシガタ)科.....三〇

一八、石竹(ナデシコ)科.....三〇

一九、馬兜鈴(ウマノスズクサ)科.....三〇

二〇、酢醬草(カタバミ)科.....三一

二一、古柯(アマ)科(亞麻科).....三一

二二、桑 科.....三二

二三、木蘭(モクレン)科.....三二

二四、荳 科.....三三

二五、芸香(ヘンルウダ)科.....三三

二六、蓼(タデ)科.....三四

二七、菊 科.....三四

二八、楊柳(ヤナギ)科.....三五

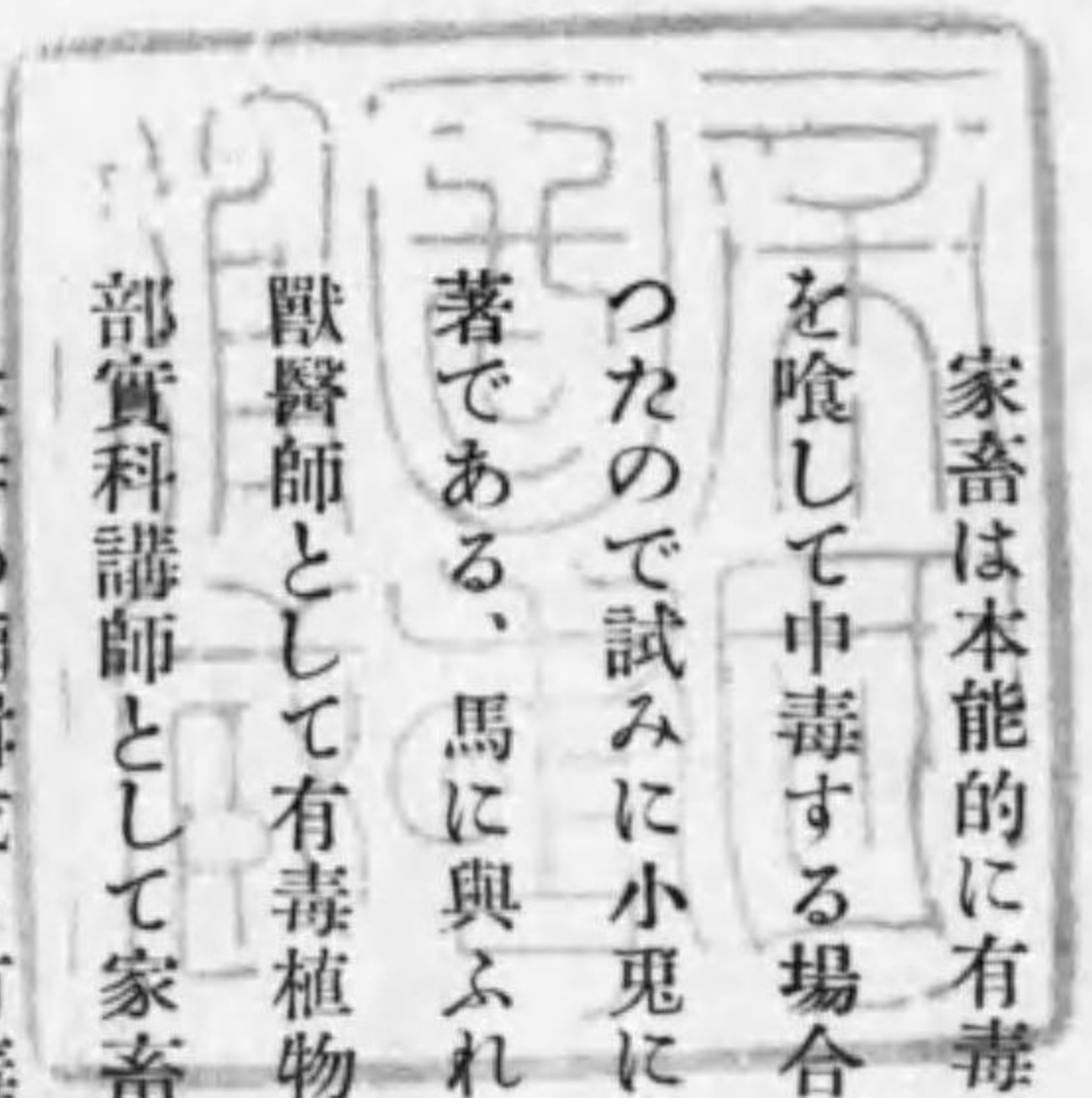
二九、罌粟(ケシ)科.....三六

四

三〇、黄楊(ツゲ)科.....七四
 三一、薔薇(イバラ)科.....七五
 三二、十字花科.....七六
 三三、蘿摩(カガイモ)科.....八二
 三四、夾竹桃科.....八三
 三五、太戟(カタトウダイ)科.....八三
 三六、田麻(シナノキ)科.....八九
 三七、一位科.....九〇
 三八、松杉(マツ)科.....九一
 三九、木賊科.....九三
 四〇、水骨龍(ウラボシ)科.....九四

有 毒 植 物

農學博士 飯塚安喜雄



家畜は本能的に有毒植物はよく之を避けて喰はざるを常とすれども時に不用意に之を喰して中毒する場合がある、最近東京府下にて乳牛の「アセビ」による中毒例があつたので試みに小鬼に與ふれば一葉の約半分を喰してそれ以上喰せず、中毒症状は顯著である、馬に與ふれば一口は喰すれども第二回には全々喰せず、而してかゝる場合獸醫師として有毒植物の簡明なる参考書を望むや切なるものがある、余曩に帝大農學部實科講師として家畜衛生學を講ずる際、昭和四年及五年度卒業生の有志の努力により本書の編輯成り有毒植物参考書として良好であると信ずるを以て應用獸醫學雜誌に掲載し併せて之を一本にまとめる事とした。

尙、本書は曩きに大學院學生であつた田崎武八郎氏が編纂された「有毒植物一覽」

を基としてあるので茲に一言し、同氏に敬意を表する次第である。



(ンセイソ)

石蒜 (ヒガンバナ) 科 Amaryllidaceae.

1、スイセン *Narcissus tazetta*, L.

形態 省略。

産地 全国に汎布。

有毒成分 ナルシチン、(アルカロイド)。

毒物所在 珠莖及草幹。

中毒症状 胃腸炎、鈍麻、倦怠、痙攣、瞳孔

散大、暴瀉。

被害動物 牛、山羊、豚。

2、マンジュシヤケ、ヒガンバナ、

テンガイバナ *Lycoris radiata*, Herb.



(ケヤシユツンマ)

形態 省略。
 産地 全国。
 成分 リコリン、(アルカロイド) ($C_{22}H_{23}N_2O_8$) 及セキサミン ($C_{11}H_{16}M_2C_9$)
 所在 地下莖。
 症状 舌の硬直、嘔吐、下痢、中樞神経麻痺、死。
 動物 馬、牛、山羊、豚。

3、キツネノカミソリ *Lycoris sanguinea*, Maxim.

形態 諸所の山麓原野に自生する植物にして頗る前者に類するも、葉綠色にして且つ廣く、四月頃枯死し夏日復莖を抽くこと一尺計りにして、莖頂に黄赤色の四、五花を着し六片の花蓋は反曲しない。

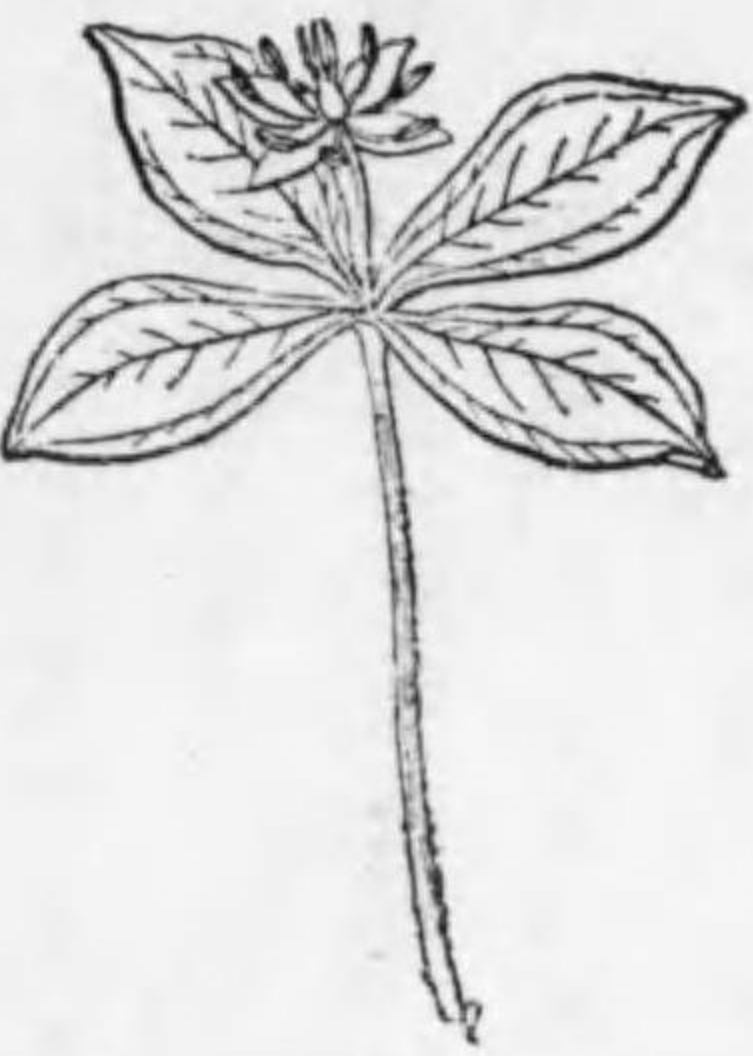


(リソミカノネツキ)

產地 會津、日光、東京、信濃、横濱、京都、備中、舞鶴、豊前、石槌山。
成分、所在、症狀、前者に同じ。

百合科 Liliaceae.

4、ツクバネサウ Paris tetraphylla, A. Gray.



(ウサネバクツ)

形態 深山の喬木帯に生ずる宿根草にして莖高五、六寸より一尺に及び根は長く地中に横行す、卵圓披針狀の四葉或は五葉を莖頭に輪生し其色淡緑にして基部に暗紫の暈あり四、五月頃その中心より一寸許の一梗を抜き頂に四萼片より成る淡綠色の一花を着く、花柱長く四裂して八雄蕊を持つてゐる。

產地 札幌、磐梯山、白山、信濃、劍山。
成分 パリヂン。

所在 莖葉及果實。
症狀 嘔吐、眩暈。



(ウサネバクツバマルク)

5、クルマバツクバネサウ Paris quadrifolia, L.
形態 高山喬木帯に生ずる多年草本である、莖長五、六寸にして八葉を輪生し七月頃葉間二、三寸の長梗を出して帶黄綠色四片の花被を有する花を綴る。

產地 札幌、日光、富士山、八ヶ岳、劍山。
成分 パリヂン。
所在 莖根、漿果（殼には痕跡で、種子油中に多い）
症狀 嘔吐、疝痛、下痢、聾、瘧、麻痺。
動物 (鶏)

6、スミラン、キミカゲサウ *Convallaria majalis, L.*



(シラバス)

形態 春幅廣き二、三葉を有する莖の側より七、八寸許の花梗を出し五―七の小白花を懸垂し清香を放つ。

産地 札幌、函館、淺間山、唐國岳。
成分 コンバラマリン及びコンバラリン。

所在 草體。

症狀 初期迷走及び血行主宰神經興奮(血壓亢進)後に麻痺、消化器粘膜炎の刺戟。
動物 馬、牛、羊。

百合科

7、バイケイサウ(一名ハヘノドク、ハヘコロシ) *Veratrum album, L.*



(ウサイケイバ)

形態 深山の卑濕地に自生する宿根草にして春發苗し夏三、四尺に達す、葉は大なる廣楕圓形にして柄は互生して莖を包む、夏莖葉梢に枝を分ちて六片の黄白花を複穗狀に綴り、花被に綠暈竝に黄綠の條あり、通常雌雄株別なれ共又兩性花を交ふるものがある。

産地 白山、駒ヶ岳、御岳、白馬山。
成分 ベラトリン、プロト・ベラトリン、ブソイドジャーピン、ベラトリヂン。

所在 莖、根。葉には僅少。

症狀 騷擾し嘔吐、絞扼、噯氣、吃逆、鈍麻、流涎、下痢、疝痛、呼吸短促、不正脈搏、發汗、倦怠、戰慄、痙攣、鼓脹、一般麻痺。

動物 馬、牛、(一八〇瓦乾燥莖根にて致死)、豚(一五瓦にて致死)

8、コバイケイサウ (シシノハバキ) *Veratrum stamineum*, Maxim.



(ウサイケイバコ)

形態 前者より稍小形の宿根草にして深山に生ず、春發苗し初夏二尺許の一莖を抽き梢に小枝を分ちて小花にして六被花を有する花を開く、其背面に微黄暈を有し、綠條を有しない、雄蕊は長い。

産地、成分、所在、症狀、動物 前者に同じ。

9、シユロサウ (藜蘆) *Veratrum nigrum*, L.



(ウサロユシ)

形態 山地に生ずる多年草である、葉は甚だ長き披針形で、數葉叢生せる間より夏日三尺許りの莖を抽出し、莖頂枝を分ちて黒紫色の六被花を圓錐花序に綴る、夏臭あり、花は單性花と

兩性花とを雜生する、稜毛に似た毛があつて根及び莖を被ふ。

産地 十勝、輕井澤、木曾、遠江、伊吹山、

劔山、伊豫、土佐、阿蘇、臺灣 (淡水)。

成分、所在、症狀、動物、前者に同じ。

天南星 (テンナンショウ) 科 *Araceae*.

10、カラスビシャク *Pinellia ternata*, Berit.



(クヤシビスラカ)

形態 春畑地に多く生ず、始めは三小片を有する一葉を出し晩春更に一花莖を生じ佛燄狀の苞にて長き花梗の下部に♀花を開き、上部に♂花を付ける、末端長く苞外に垂れ地下に細長い莖を有し、先端四、五分の塊根を有す。

産地 羽前、東京、伊豆、周防、鹿兒島、對島、琉球、沖繩。

成分 揮發性油。

所在 地下部。

症 狀 創面及皮膚の發炎、全身症狀としては戦慄、搖擗、露出粘膜炎の充血、呼吸困難、心悸亢進、麻痺を見る。
動物 馬。



(ワヤシンナンテ)

11、テンナンシヤウ (ヤマコンニヤク)
Arisaema japonicum, Bl.

形 態 山野の樹陰等に自生する宿根草にして地下に扁圓大なる球根あり、春二―三尺の大莖を抽して長柄の二葉を互生す、其中通常一葉は大にして約十個の小葉よりなり、下部に位するものは小にして數個の小葉よりなる、各小葉は何れも全邊平滑にして廣披針形をなし鳥足狀に排列す、夏の初め莖頭に花あり、單性にして肉穂花序に排列し♀花は下部の花は上部に集り黒紫色の大なる佛燄苞にして花軸の先端は鈍頭にして秋

赤色の實を結ぶ。

産 地 札幌、日光、大山、加能山、秩父、戸隠、白山、八丈島、春日山、周防の長門、對馬、臺灣。

成 分 揮發油性。

所 在 地下部及果實。

症 狀 前者に似て尚咽頭及消化器の炎症を發す。

動物 馬。

12、ウラシマサウ *Arisaema thunbergii*, Bl.

形 態 山野の陰地に自生する宿根草にして地下に大球莖を有す、春一本大葉柄抽出すること一―二尺、葉身鳥足狀に多數分裂し各裂片は全邊にして平滑夏花莖に佛燄苞にて包ま



(ウサマシラウ)

る、♀♂花を開く苞黄褐色に暗紫點を有し花軸の先端黒紫色にして長き纖維狀に延曲す、佛燄苞鶴の翔けるに似たるを以て一名舞鶴天南星と云ふ。

産地 北海道、東京、秩父、天城山、八丈島、周防、四國、九州、對島。
成分 前者に同じ。



(ミブアアシサム)

所在地 地下莖及子實。

病状 カラスビシヤクに同じ。時に疝痛、出血、流涎を呈する。

動物 馬。

13、ムサシアブミ *Arisaema ringens*, Schott.

形態 暖地の溪間陰地に生ずる宿根草にして地下に球莖あり、春一尺餘の莖を抽出して三個の小葉より成る掌狀葉二個を有し、其間に一個の肉穂花序を出して佛燄苞に包まる、花は♀♂異株である、苞は

其上部に卷曲して鐙狀を呈し、外面暗黄綠色にして淡紫の條を存し内面は帶紫色である。

産地 長門。

所在、成分、症状、動物、前種に同じ。

禾本科 Gramineae.

14、ドクムギ *Lolium temulentum*, L.



(ドクムギ)

形態 歐洲原産の一年草本にして莖高三尺に達す、莖葉概形一般麥類に似たるも葉脈は著しく細く、表面には葉脈に沿ふて縦溝を有し葉鞘は赤紫色を帯ぶ、花軸は一五—一六個の小穂を疎生するを以て著しく長く小穂數個の花を成し各小穂の莖脚に長き穎を具ふ。

産地 熊本、長野、宮城。

成 分 アルカロイド(テムリン)、グリコシード(ロリン)(最近研究によれば
テムリンのみであると云ふ)。

所 在 粒子、莖葉。粒子には(テムリン 0.06%)を含有する。

症 状 眩暈、聾、鈍麻、無感覺、瞳孔散大、疝痛、痙攣。剖檢により軽度の腸
炎を見る。

動 物 馬(試験に於て牛、羊、豚は陰性)。

桔 梗 科 Campanulaceae.

15、サハギキヤウ(チャウチナ) *Lobelia sessilifolia*, Lamb.



(ウヤキギハサ)

形 態 山間の湿地に生ずる宿根草にして高さ

二—三尺又は四—五尺に至る、葉は無柄、披針

形にして細鋸齒を具へ互生す、秋莖の小部には

鐘狀の穂をなして不整齊にして青紫色の合瓣花を綴る、其の萼は鐘狀にして花冠

又深く五裂し瓣の縁に細齒がある。

産 地 湿地及び熱帯。

成 分 アルカロイド(ロベリン $C_{12}H_{23}NO_2$)。

所 在 全部、就中種子。

症 状 呼吸中樞の麻痺。

16、ミソカクシ(アゼムシロ) *Lobelia radicans*, Thunb.

形 態 晩春より秋にわたりて田畔池溝の邊に密生する小草本である、莖は纖弱

にて地に就て匍匐し節々より線根を出して深く

地中に入る、葉も細くして小さく白色に微紅を

帯べる小花を開く、花冠は五裂して一邊に向ふ

の様恰も一の花を半截したるもの、如く、故に



(シクカクシ)

半邊蓮の稱あり、各蕊は五個葯は互に連結し一花柱其間より出ず、片根に地に入

るもよく繁殖す。

産地 羽前、會津、東京、一の宮、遠江、周防、土佐、對島、臺灣。

成分、所在、症狀、前者に似てゐる。

玄 參 科 (コマノハグサ) Scrophulariaceae.

17、チギタリス *Digitalis purpurea*, L.

形態 省略す、效用、心臟の特效藥、觀賞用。

產地 栽培。

成分 グリコシドチギトキシン ($C_{21}H_{27}O_{11}$)

ギタリン、チギトヒリン ($C_{22}H_{29}O_{10}$)



(スリタギナ)

所在 葉にはチギトキシン 1.71—0.45%あり (季節により異なる)。

症狀 食後先づ胃腸炎を起し流涎絞扼、嘔吐、痙痛、下痢を起し、且つ迷走及
血行主宰神経の興奮を來し (血壓亢進) 後麻痺す、眩暈、蹣跚、一般麻痺に陥り

斃れる。

動物 馬、牛、羊。

18、ヲホアブノメ *Gratola japonica*, Mig.

形態 六、七月頃、水田中に生ずる小草本にして丈五—七寸、根際より數莖を

分ちて直立し淡綠色を呈す、卵圓披針狀の全邊無柄の小葉を分ちて直立小葉を對

生すること七—八層にして、梢葉腋に淡青色の小假面花を綴る。

產地 岩城、備中、武藏。

成分 グラチオリン及びビグラチオリシン。

所在 草體。

症狀 出血性胃腸炎、豚には嘔吐。

動物 馬、牛、豚、羊。

茄子 科 *Selaginaceae*.

19、テウセンアサガホ (キチガイナス、マンダラゲ) *Datura alba*, Nees.

附、白花朝鮮朝顔 *Datura stramonium*.

形態 原野路傍に生ずる草本にして大なるものは莖高四—五尺に至り、枝疎に生じ廣く葉卵圓形にして三五不齊の突起あり。各枝梢腋に漏斗狀淡紫色 (後者は白) の花を綴る、果實は蒴果にして果皮に大なる棘狀突起あり。胡麻の如き黒色の種子を生ず。



(ホガサアンセウテ)

産地 臺灣 (後者は栽培)

所在 何れも凡ての部分に有毒成分を有す、テウセンアサガホは花は主としてヒオスシンにして〇・五一%を含み、ヒオスシァミン〇・〇三%、アトロピン〇・〇一%を含む、種子にはヒオスシァミン〇・四一%、アトロピンは化合物として〇・〇五%を含む。

白花朝鮮朝顔は葉には主としてヒオスシァミン二—六%を有しアトロピンは少量である。種子にはアトロピンを有せず、ヒオスシンのみにして〇・三三—〇・四八%を有す。其他アルカロイド總量としては主根には〇・一%、側根は〇・二五%、莖は〇・〇九%、梢枝は〇・三六%、花冠は〇・四三%を含有する。

成分 アルカロイド、アトロピン及びヒオスシ
アミン ($C_{17}H_{21}NO_3$)、ヒオスシン ($C_{17}H_{21}NO_4$)
マ 症 狀 瞳孔散大、腦及び心臟亢進、筋肉麻痺。
コ 動物 牛、馬。



附、丸葉タバコ *N. glauca*.

形態 省略。
産地 栽培。

20、タバコ *Nicotiana tabacum*, L.

成分 ニコチン ($C_{10}H_{14}N_2$) ニコチイン ($C_{16}H_{12}N_2$) ニコチミン ($C_{16}H_{14}N_2$)
ピロリヂン (C_8H_9N)

所在 葉にはニコチン一―九%を含有し種子には〇・五%のニコチンと僅少のソラニンを有し、又根及び葉に於ては外皮にニコチンを含有する。

症状 戦慄、不安、呼吸困難、痙攣、瞳孔縮小、消化器炎症。

動物 牛、山羊、(雀)、犬。



(キツホホガイ)

21、イガホホツキ *Physalisstrum echinatum*, Makino.

形態 山野に生ずる莖高一―二尺の草本にして枝極を分ちて擴がり下部の葉は互生するも上部の葉は二枚宛一側に付き梢葉腋に白色微黄の鐘狀五尖裂せる花一個宛を綴る、萼も又鐘狀五尖にして五雄蕊は白葯を有し子房は延長して一花柱を有す。花後萼片増大して果實を包み球狀綠色

を呈し其表面に棘狀突起を疎布する、果實は白綠色の漿果にして僅に先端萼口に露れる。

產地 日光、富士、土佐。

成分 ソラニン。

所在 草體。

症状 聾、十字部脛弱、體軀及び心筋麻痺。

動物 牛、豚、山羊。

22、ハシリドコロ (オメキグサ、ハギキヤウ、菘菔) *Scopolia japonica*, Maxim.

形態 深山幽谷に生ずる宿根草にして高さ一―二尺に達す、葉は長卵圓形乃至長橢圓形にして兩端尖り互生し、長さ二―三寸、縁邊波狀を



(ロコドリシハ)

呈す、苗初め紫黑色を呈す、後葉莖共に淡綠色に變ず、花は葉腋に一個宛長梗によりて下垂し濃紫艶鐘狀にして更に暗紫色の脈理を現し上縁五裂す、果實は漿果にして種子は茶褐色を呈し地下莖は多少彎曲する。

產地 武藏、筑波、阿波、信濃、近江、紀伊、肥後、伊勢、伊豆 相模。

成分 アトロピン、ヒオスシアミン、ヒオスシン。

所在 地下莖（アトロピン、ヒオスシンは少量あり）

症 狀 瞳孔散大、視力障礙、神經亢奮、狂暴、痙攣、心悸亢進、胃障害、脱力、麻痺。

23、マルバノホロシ *Solanum nipponense*, Makino.

形態 原野に生ずる蔓狀草本にして長卵圓形葉を互生する。晩夏の頃梢繖房狀をなして徑三分許の紫花を開く、花は五深裂にして披針狀を



(シロホノバルマ)

なせる花瓣と鐘狀五尖の蔓とより成り中に鮮黄色を呈せる葯を有する合蕊と一葎とを具へ花後深紅色の漿果を結ぶ。

產地 北海道、羽前、岩城、越前、越後、信濃、阿波、對島、臺灣。

成分 グリコシード、ソラニン。

所在 葉莖熟果に〇・三—〇・七%を有す。

症 狀 軽度の聾、眩暈、蹣跚、踉蹌、腰痠等を發し、劇しきときは轉倒、死に至る。

動物 牛、豚、山羊。

24、ヒョドリジャウコ (ホロシ) *Solanum lyratum*,

Thunb.

形態 蔓狀をなして原野に普く生ずる宿根草である、莖は細長く他物に纏絡す。葉は長卵圓形で



(ゴウヤシリドヨヒ)

基部左右に缺刻を挟んで二岐を出し、基脚は多少心臟形をなし、莖葉共に軟毛あり、葉は往々耳形をなすものあり、八、九月頃葉柄に對して花軸を出し多く分叉して鐘狀五裂せる小白花を開く、萼も鐘狀五瓣、果實は漿果にして秋に至れば紅熟して南天大となる。



(キヅホホメイ)

產地 北海道、羽前、岩代、武藏、下總、對島。

成分、所在、症狀、動物、前者に同じ。

25、イヌホトツキ (ヤマホ、ツキ、ウシホ、ツキ)

Solanum nigrum, L.

形態 前者に似て原野に生ずる莖高二―三尺の草本にして花は葉腋に細梗を出し數個を綴り、漿

果は黒色にして前種の如く萼に包擁せられない。

產地 札幌、羽前、武藏、河内、薩摩、對島、臺灣。

成分、所在、症狀、動物、前者に同じ。

26、ヒメス *Hyosyanus niger.*

形態 歐洲及熱帯に生ずる二年生草本にして莖高二―三尺に達し全部に毛を有す、下部の葉は長卵圓形をなし不規なる三又六個の巨大なる鈍鋸齒をしてゐる。上部の葉は葉柄を缺き葉脚にて萼を抱き、花は莖頂及葉腋に生じ黄色の瓣上に紫の脈理を有す。

產地 栽培。

成分 アルカロイド、ヒオスシン及びヒオスシアミン。

所在 乾草に〇・〇五九―〇・〇七%のヒオスシアミン、種子に〇・〇五七―〇・一六%のヒオスシンを含有す。根莖の含有量は葉よりも多いと云ふ。

症狀 瞳孔散大、腦症狀、心亢進、筋麻痺。

動物 馬、牛、鶏。

馬錢 (マチン) 科 Loganiaceae.



(シチマ)

27、マチン *Strychnos nux vomica*, L. 番木鱧、

形態 東印度コロマンドル地方に産する常緑樹にして高さ一丈五、六尺に達する、莖は對生無柄革質卵圓形にして三―五の肋膜あり、花は小形、萼は小さく花冠は帶綠白色圓筒狀を呈し邊緣五裂し、枝端に撒形をなして簇生してゐる。

果實は丸く大形の杏の如く美黄色を呈す。

產地 栽培。

成分 ストリヒニン及びブルシン、ストリヒニンシ。

所在 葉にはストリヒニンなく、ブルシン〇・三三%、樹皮には樹木の幼老によつて差あり、若きものは六・五%、老いたものは一・六八%のブルシンを含み、

ストリヒニンは痕跡を有する、木質部はストリヒニン一・四%、ブルシン一・〇%を含む、生鮮の花はストリヒニン一・四%、ブルシン一・〇%を、種子は莖に同じく三―四%で、其四三・五―四五・六%はストリヒニンである。

症 狀 全身痙攣、四肢頭部脊柱尾根の強直、

恐怖、呼吸困難。

動物 馬、牛、豚、山羊。

石 南 (シヤクナゲ) 科 *Ericaceae*.

28、アセビ (アセボ、エセビ、アセミ、馬酔木)

Andromeda japonica, Thunb. *S. Pieris japonica*.



(ピセア)

形態 常綠灌木にして山地に多い、通常は五、六尺の丈であるが、深山にては二丈に達するものがある、葉は革質長卵圓形で先端尖り縁邊に鋸齒あり、三、四月頃梢上に二、三寸の穂をなして白い壺狀の小花で一見ドウダンツ、ジの花の如

く群り綴る。

産地 下野、武藏、伊豆、駿河、越後、伊勢、大和、紀伊、肥後、肥前、筑前。

成分 アンドロメドトキシン ($C_{15}H_{15}O_6$) アセボチン。

所在 葉及び種子、木質部にアンドロメドトキシンがある。

症状 流涎、絞扼、嘔吐、痙痛、血便、眩暈、皮膚粘膜の炎症、神経中樞の麻痺。

動物 馬、牛、犬。

29、ネチキ(カシオシミ、カシオズミ) *Pieris ovalifolia*, Don.

形態 山野に普通なる落葉樹で幹高一丈餘、其幹縊るを常とする、新枝は赤色で光澤あり、葉は卵圓形に互生し、裏面の脈上に毛茸が多い。五、六月頃新梢に二―三寸の花軸を抽いて白色筒状にして縁邊三光起ある小花を穂状に綴り果實は小豆大にして裂開する。



(シツツゲンレ)



(キザネ)

産地 塩原、日光、常陸、河内、箱根、大津

(大和)、布引、和歌ノ浦、尾ノ道、長門、沙川、醍醐山(土佐)、阿波百貫石、三ノ岳(肥後)、長崎。

成分 アンドロメドトキシン。

所在 葉。

症状 前者に同じ。

動物 馬、牛、山羊。

30、レンゲツ、ジ(キバナツ、ジ、コウレンツ、

ジ、羊躑躅) *Rhododendron japonicum*, Suring.

形態 山野に自生する落葉灌木であるが、屢々庭園に栽植せられる、莖高通常五―六尺、時

として丈餘に及ぶ、葉は倒長卵形又は倒披針形にして纖毛狀鋸齒を有し疎に毛茸を具ふ、平原向陽の地にては四月に開花すれども山上にては六月尙花あり、總狀に排列する。

產地 函館、八甲山、日光、淺間、富士、春日山、高野山、肥後。

成分 エリコリン、アンドロイネドトキシン。

所在 花、葉。

症 狀 略々前者に同じ。

動物 羊、馬、牛。

繖形科 Umbelliferae.

31、ドクゼリ (オホゼリ) *Cicuta virosa*, L.

形態 處により犬ゼリ、鬼ゼリと云ふ、水濕の沼地に生ずる、莖高四―五尺に達する草本で厭ふべき惡臭がある、葉はセリに似て細く莖は空筒にして節あり、

地下部は筒の内部の如くである、複撒形花序に排列する白色の小花を攢簇する。

產地 札幌、空知、長萬部、函館、青森、弘前、盛岡、米澤、福島、淺間、和田峠、戸隠山、山城、肥後。

成分 シクトキシン (乾燥するも殘存す)

所在 總ての部分、根に於ては生鮮のものは〇・二%、乾燥物は三・五%を含む。



(リセクド)

症 狀 鼓脹、胃腸炎、筋痙攣、脈搏増數、強度昏睡、麻痺、致死。
動物 馬、牛、豚。

32、ドクニンジン *Conium maculatum*, L.

形態 歐洲産の二年草にして莖は直立して五、六尺に達し下部は不規則なる紫

色の斑紋を具ふ、葉は三圍羽狀複葉にして四尺の長さに達し葉柄の下部は廣く互生してゐる、花は五瓣黃白色にして複撒形に排列する、果實は雙懸果にして卵形をなし、綠褐色を呈す、此の者は鼠に似たる惡臭を放つ。

產地 不詳。

成分 アルカロイドのデコニン（乾燥後尙殘存する）

所在 總ての部分主として種子又は開花時の葉（葉は〇・〇一—〇・〇〇四%、

果實は〇・二%）

症狀 流涎、嘔氣、胃腸炎、聾、痙攣、麻痺、致死。

動物 馬（三封度半、生草にては作用はない）牛（三封度、生草にては作用なし、半封度の乾草にては有毒）、犢、羊、山羊。

33、ハナウド（サラジョシビシヤク）*Heracleum lanatum, michx.*

形態 概形ウドに似、葉は羽狀複葉にして小葉は深い缺刻を有し無柄葉背に毛



(ドクナメ)

茸あるも、葉面には少い、複繖形花序にして大
小共に針狀總苞あり、白色五瓣の大きさ四分許り
の花を攢簇する、瓣頭白く内方に曲り、淡黃綠
色の微量あり、果實は大形にして長さ三分許倒
卵形又廣楕圓形を呈す。

產地 エトロロフ、シコタン、北見、札幌、

羽前、岩代、下野、武藏、遠江、山城、相模、石槌山（伊豫）、肥後、薩摩、對
島。

成分 不詳。

所在 草體。

症狀 流涎、呻吟、脈搏衰弱後回復。

動物 牛（タマン氏は無害であると云ふ）

三瑞香(チンチヨウゲ)科 Thymelaeaceae.

34、ヲニシバリ(ナツバウス) *Daphne pseudo-mezereum, A. Gr.*



(リバシニチ)

形 態 栽培せらるゝも山野海濱に自生するもの
少からず、落葉灌木あり、葉は長莖形をなして長
さ二寸許、夏に到つて脱落する、一、二月頃既に
花あり、黄綠色の小筒状花にして先端四裂し五
蓋は瓣上より出て花後棗大の紅實を結ぶ。
産 地 小金ヶ原(下總)、大山、横須賀、横濱、

下田、伊豆。

成 分 發疱を起す、樹脂メチエリン。

所 在 樹皮。葉には僅少(乾物には三一%を含有す)

症 狀 不快の疝痛、下痢、眩暈、衰弱、咳嗽、泌尿器刺戟、發汗、胃炎。

動 物 馬、(三〇瓦の乾燥物にて死す)

35、サツマフジ(フジモドキ、チヨジサクラ、シゲンジ) *Daphne genkwa, Sieb*
et Zucc.

形 態 支那の原産にして觀賞用として栽培せられる、落葉灌木である、莖高三
尺許、葉は對生楕圓形にしてやゝ厚く毛茸を密生し恰も長い穗狀を呈す、花は筒
狀にして其の先端四裂し中に二裂の九蓋と一個の短蓋とを具ふ。

産 地 尾張、肥前(高尾峠)。

成 分 刺戟性毒物。

症 狀 重症の胃腸炎、口腔炎、流涎、嚥下困難、嘔吐、疝痛、大下痢、尿淋
瀝、大倦怠、衰弱。

動 物 馬。

36、チンチヤウゲ *Daphne odora, Thunb.*



(ゲウヤチンナ)

形態 觀賞用に供せらるゝ常緑灌木である。

莖四、五尺、枝葉繁茂す、葉は長橢圓形にして其質厚く全邊にして又光澤あり、早春花である、芳香を有し外面紫紅色、内面白質の美麗なる合瓣萼を有す。

產地 栽培及寶滿山(筑前)、長崎、臺灣。

成分、所在、症狀、前者に同じ。

衛 矛(ニンキギ)科 (Celastraceae)

37、マユミ(ヤマニンキギ) *Evonymus sieboldiana*, Blume.

形態 温帯の山野に自生する落葉木にして樹高一―二丈に達するものあり、樹皮は赭色栓質にし



(ミユマ)

て縦に割目あり、葉は通常桃葉に似て先端尖り細い鋸齒を有す、六月頃梢に極を岐ちて花あり、花瓣は徑二分許、黄白色にして基脚は紫色を帯び葯は黒紫色である、果實は秋に至れば四つに裂開して美麗なる假種皮を現はす。

產地 北見、札幌、吾妻、會津、若松、戸隠、東京、伊豆、白山、河内、備後、

周防、肥前、豊前、對馬。

成分 エボニミン。

所在 葉。

症狀 下痢、嘔吐、致死。

動物 羊、山羊。

38、ニンキギ *Evonymus striata*, Makino.

形態 山野雜林中に生ずる落葉灌木にして莖高一丈許に達す、幹枝に硬皮質の縦翼あり、葉は對生橢圓にして先端尖り細鋸齒あり、六月頃淡黄綠色の細花を聚



(ギキシニ)

漆

樹(ウルシ)科 Anacardiaceae

39、ウルシ *Rhus vernicifera*, DC.

形態 山地に自生する落葉樹にして高さ二―三丈に達し此類の特性として枝は甚だ太い、葉は七―九小葉よりなり大形の奇數羽狀複葉にして小葉は卵形又は楕圓形をなし尖り全邊である。六月頃錐花序をなして黄綠色の細花を付し、實は二、三分扁歪にして表面平滑に其色黄褐色である。

繖花序に排列する、秋小さき豆形の果實を付け、熟すれば開裂して黄赤色の假種を帶べる種子を現出する。

產地 北海道、米澤、金澤、日光、善光寺、大山、河内、備中、對島。

成分、所在、症狀、動物、前者に同じ。



(シルウ)

(キノセマ)

40、ハゼノキ *Rhus succedanea*, L.

形態 落葉樹にして老成せるものは幹高三丈に達せるものがあり、葉は光澤ある羽狀複葉で小葉は殆ど柄なく卵圓形をなし九―一七個を以

產地 栽培。

成分 フェノール類、ウルシオール ($C_{20}H_{30}O_2$) 又漆酸と云ふ、又最近の研究によれば樹脂性の毒物とも云ふ。

所在 樹皮及葉 (六〇―八五%)

症狀 觸るれば皮膚に水疱瘡を生じ、食すれば胃腸を刺戟し神經錯亂を起す。

動物 馬。

て一全葉とする、花は黄緑色で小さく五、六月頃圓錐花序を綴る、果實は扁圓形にして三分許である。

產地 紀伊、四國、九州、琉球、臺灣、義蘭。

成分 苛烈毒物。

所在 果實、樹皮、葉。

症狀、動物、前者に同じ。



(シルウマヤ)

41、ヤマウルシ *Rhnus trichocarpa*, Mig.

形態 山林中に生ずる落葉樹で高さ一丈餘、

概形ウルシに類すれども小葉の邊緣に若干の鋸齒を有するものと、果實は平滑ならずして淡黄色の剛毛を存し稍小形、六、七月頃複總狀花

序をなして黄緑色の小花を開く。



(シルウタツ)

42、ツタウルシ *Rhnus toxicodendron*, L.

形態 山地に自生する蔓性の灌木である、莖は

木質にして牆壁、木石等の上に細き氣根を出して攀縁する。葉は三個の小葉よりなり小葉は卵圓にして通常全邊あり、初夏帯緑白色の細花を葉腋に叢生し後にウルシの如き平滑なる核果を結ぶ。

產地 北海道、本土、四國、九州、臺灣。

成分 トキシコデンドロン酸及びトキシコデンドリン。

所在 葉及種實。

其他前者に同じである。



(テ ル x)

43、ヌルデ (フシノキ) *Rhus japonica*, L.

形態 山野に普く自生する落葉樹にして樹皮

は薄き褐灰色を呈す、葉は大形の羽狀複葉にし

て長さ一尺許あり、總葉柄と小葉柄に翅を有し

小葉は長卵圓形にして鋸齒あり、七、八月頃複

總狀花序をなして五瓣白色の細花を攢簇する。果實は小核果狀で、熟すれば外面

に白粉を生じ味は鹹い。

産地 全國。

前者と同じく漆瘡を發す。

毒 空 木 (ドクウツギ) 科 *Coriariaceae*.

44、ドクウツギ (市郎兵衛殺、ウマオドロカシ、カワラウツギ、イボノキ、ネツミ

コロシ、オニウツギ、ミソヤカズ、シマウツギ) *Coriaria japonica*, A. Gray.

形態 山野又は河邊等に自生する落葉木にして土際より枝を叢生し莖高四、五

尺に達す、莖は稍方形にして若きものは赤味を帶

ぶ、葉は對生其下部のものは稍圓形なるも上部の

ものは卵狀披針形先端銳尖にして葉柄はなく葉片

に三個の大脈あるによりシマウツギの稱がある、

花皮は皆五出離生し合蓋は十個あり、子房は五室



(ギツウグド)

に分れる、花色帯紅にして總狀花序をなし葉脈より生じ晩春に開く。

産地 石狩、陸奥、米澤、盤梯山、赤城山、善光寺、下總。

成分 コリアムグルチン。

所在 果實。

症狀 全身の痙攣、呼吸困難、麻痺。

動物馬。

毛 茛 (ウマノアシガタ) 科 Ranunculaceae.

45、タガラシ (ドブゴセウ、カエルノキツケ) *Ranunculus sceleratus*, L.



(シラガタ)

形をなす、蕃殖力は強い。

産 地 北海道、羽前、東京、相模、伊豆、周防、四國、豊前、豊後、肥前、筑前、琉球、臺灣。

成 分 アネモナル (乾燥及煮沸により毒力を失ふ)
所 在 草體。

形 態 水田溝渠に多く丈一尺許にして莖葉平滑、毛がない、莖太くして空洞下葉は三深裂し、其裂片又鈍頭の細裂片をなす、花は小にして徑二分許、花瓣は黄色にして光澤あり、果實は數多の瘦果が長圓壻状の花把上に攢簇して長隋圓

症 狀 主として消化器及び腎の炎症にして、聾及び痙攣を來し血尿、疝痛、下痢等を發し卒中狀に陥つて死亡する。

動 物 馬、羊、牛。

46、キンポウゲ (ウマノアシガタ) *Ranunculus acris*, L.



(ゲウボンキ)

形 態 田野、路傍に多く莖高一—二尺、毛茸あり、或は之を缺き根葉は三裂、其裂片更に分裂して缺刻鋭齒牙をなす、花は此の屬中尤も大にして徑七、八分、濃き光澤ある黄色を呈す、果實はキツネボタンに類す、此草の單瓣なるをウマノアシガタと云ひ重瓣なるを

キンポウゲと云ふ。

産 地 全國に汎布する。

成分、所在、症状、動物、前者に同じ。

47、キツネノボタン *Ranunculus japonicus*, Langsd.



(ンダホノネツキ)

形 態 路傍、田間に生じ黄色花を開く、倒卵形をなせる花瓣の内面莖部に小鱗片を有す、莖高一、二尺粗毛を有す、下葉は三出葉にて光澤ある黄色の主瓣よりなり各葎は多数の集球状をなす、果實は瘦果にして扁平其の嘴、鈎状をなす。

産 地 殆ど全国。

其他前者に同じである。

48、ツクモグサ *Anemone patens*, L.

形 態 本邦中部の草本帯に生ずる多年生草本である。二四掌状に細裂し長柄を

有する根出葉數葉を叢生する。七月頃葉間一莖を抜き無柄の分裂葉を對生し葉間より更に一梗を抽きて帶黄白色の花瓣状をなせる六片の葉よりなる花を開く。

産 地 八ヶ岳、白馬山。

成分、所在、症状、動物、前者に同じ。

49、キクザキイチリンサウ(キクザキイチゲサウ、菊咲一莖草) *Anemone altaica*, Fisch.



(ウサンリチイキザクキ)

形 態 山地に生ずる草本にして地下に淺く塊草状の結節を有す、莖高六——八寸、根葉三出複葉にして其小葉は通常倒卵形をなし缺刻又は缺刻状齒牙を有す、總苞葉は三個にして何れも有柄の三出葉をなし、四月頃淡紫色にして一寸

許の一花を生ずる、其瓣片線状長楕円形をなし一〇——一二個を有す。

産 地 日光、東京、秩父、伊の頭、四國、土佐。

成分 アネモノール。
所在 草體。
症狀 胃腸炎。

50、トリカブトサウ (烏頭) *Aconitum sinense*, Sieb.



(ウサトアカリト)

形態 原野に生ずる草本にして丈二、三尺に達し掌狀に分裂して光澤ある葉を互生する、莖梢數個の淡紫色の帽狀花を綴る、根は肥多肉にして猛毒を有す。

產地 栽培、多年生有毒本草。

成分 アルカロイド、アコニチン又はタバコニチン。
所在 根、莖葉 (花、前莖には少い) 葉は〇・三—一%、根は〇・二—一・二五%を含有する。

症狀 胃腸炎、痙攣、麻痺、無意識、呼吸困難。
動物 馬、牛、羊、山羊、豚。

51、レイジンサウ *Aconitum lycoctonum*, L.



(ウサンジイレ)

形態 山地に生ずる多年生草本にして概形トリカブトに似てゐる、莖高凡そ二尺、根葉は多くは掌狀に五裂し各裂片は又銳頭の缺刻或は齒牙を有す、春より秋に至り莖上に總狀花序をなし、淡紫色—綠黄白色花を開く、兜狀の莖片は細長き円筒狀をなし上端少しく彎曲す、花後通

常三個の殻を結ぶ。

產地 北海道、日光、秩父、八ヶ岳、白馬山、駒岳、劔山。
成分 アルカロイド、リココニチン、モヨクトニン。其他前者に同じ。

52、センニンサウ (タカタデ) *Olematis paniculata*, Thunb.



(ウサンニンセ)

形態 ボタンツルに似たるも、葉は三―七個の小葉を有する複葉にして小葉は廣卵円形にして全邊である。花は聚繖狀に花梗を出し四片よりなりボタンツルより稍大である。七、八月頃瘦果の尾は長さ一寸餘である。變種に細葉仙人掌都ボタンツルあり、花は白色である。

產地 殆ど全國。
成分 クレマチス・カンファール。
症狀 胃腸炎。
所在 總ての部分 (乾燥及煮沸により毒力を失す)。
動物 馬、牛、羊、山羊、豚。

53、ボタンツル *Olematis apifolia*, DC.



(ルツンタボ)

形態 原野路傍に多き蔓草にして葉莖少く毛あり、葉は三小葉を有する複葉で對生してゐる。七、八月頃葉腋より聚繖狀に花梗を出し白色四片の莖より成る花を綴る、花瓣は之を缺き雄蕊多數にして瘦果の尾は短い。ピロチン「小葉のボタンツル」は葉は二回又は四回の羽狀複葉にして花は花梗に一對の小苞葉を有し瘦果の尾は長くして五、六分である。エピオポダ「姫ボタンツル」は葉狭小にして二回三回の羽狀複葉である。

產地 殆ど全國。

其他前者に同じ。

54、フクジュサウ *Adonis amurensis*, Regel et Radl.

形 態 多年生草本にして葉は人蔘の葉に似て二回羽状複葉をなし、三、四月頃花を開き毬状の果實を生じ熟すれば直に脱落する。

産 地 札幌、秩父、吾妻山、豊後。

成 分 グリコシド、アドニジン。

所 在 草體。

症 状 デギタリス中毒に同じ。



(ワクンキウユリ)

産 地 北海道。

55、リユウキンクワ、*Caltha palustris, L.*

形 態 本邦中北部の山野濕地に生ずる多年生草本である、葉は腎臓形をなして鈍鋸齒を有し叢生してゐる。七、八月頃葉間に花莖を抽出し黄色五萼よりなる花を綴る。

成 分 苛烈性の毒物又はニコチンを含むと云ふ人がある。

所 在 全部分。

症 状 胃腸炎、腎炎、泌乳乾涸。

動 物 馬、牛。

石 竹(ナデシコ)科 *Coryophyllaceae.*

56、ムギナデシコ(ムギセンノウ) *Agrostemma githago.*



(コシデナギム)

形 態 舶來品にして庭園に栽培される、莖高く二、三尺で枝を分つこと少く、六月頃開花する。其色は通常紅紫色で直径七、八分あり、葉椽及葉の近邊に細毛がある。

産 地 栽培。

成 分 アグロステマ・サポタキシン。

所在 種子(燕麥間雜草の種子に混入することがある)粗サフオトキシソ五—
七・七%を含有する。

症 狀 眼、鼻、口内、胃、腸、粘膜の刺戟(炎症及壞疽)、血球溶解、出血、
血尿症、麻痺を伴ふ、神經興奮(體重支持困難、無感覺、痙攣)死。
動物 馬、豚、羊、牛。

馬兜鈴(ウマノスバクサ)科 *Aristolochiaceae*.

57、ウマノスバクサ(ウマノスバカケ、オハダロ

バナ) *Aristolochia debilis*, Sieb et Zucc.



(サクズスノマウ)

形 態 原野に自生する纏繞草本にして葉は全
邊長卵形山芋に似てやゝ小さい、七、八月頃葉
腋に暗紫色の萼よりなる不整形の筒状花を綴る
通常先端の開ける部分中の筒状をなせる部分、

最下部の囊状をなせる部分よりなり、子房下位にして ♀ ♂ 葉は囊状部にあり、

A. kamperi Wield 大葉「馬のソバクサ」は葉花大形にして帶黄綠色である。

A. trilobata, Fr. et Sav. 小葉「馬のソバクサ」は葉が狭小である。

産 地 東京、横須賀、琉球。

成 分 アルカロイド、アリストロシン。

所 在 種子。



(ミヤマカタバミ)

症 狀 興奮、失神、後肢踉蹌、貪眠、瞳孔散
大、心悸亢進、便秘、胃炎。
動物 馬、牛。

酢漿草(カタバミ)科 *Oxalidaceae*.

58、ミヤマカタバミ *Oxalis japonica*,

Franch et Sav.

形態 本邦諸山の喬木帯の間に生じカタバミに似て大なる葉を有す。四月頃白色五瓣の花を綴る。

産地 北海道、岩手山、鳥海、吾妻、日光、駒岳、八ヶ岳、天城山、立山、劔山、對島。

其他は馬のスズクサに同じ。

古 柯(アマ)科(亞麻科) Linaceae.



59、アマ(ヌメコマ) *Linum usitatissimum*, L.

形態 葉は無柄の披針状をなし、互生する。

莖は細くして丈二、三尺に達す、密植すれば直立して枝を生ぜず、花は藍色又は白色にして萼、花瓣、雄蕊、雌蕊共に五個あり、果は朔にして内に十個の種子をおさめてある。收穫期は大麻と大差ない。

産地 栽培。
成分 苛烈の麻痺性毒物。
所在 草體。
症状 痙攣、麻痺。
動物 牛、羊。

桑科 Moraceae.



60、アサ(大麻) *Cannabis sativa*, L.

形態 一年生草にして莖は直立して高さは凡そ八、九尺に達す、葉は掌状複葉にして五乃至七個の小葉よりなり各片に鋸齒がある。花は單生微小にして類白色を呈し異株に生ず。

産地 栽培。

成分 グリコシド、カンナビンド (C₂₁H₃₅O₂)
所在 苗葉。
症狀 麻醉、後に眩暈、痙攣、心悸亢進、蹣跚。
動物 馬。

木 蘭 (モクレン) 科 Magnoliaceae.

61、シキミ (シキビ、ハナシバ、ハナノキ、カウノキ) Illicium anisatum, L.



形態 暖地に生ずる常緑木にして往々人家の庭中に植えられる。幹高は二丈許に達し、葉は稍長き楕圓形で、全邊平滑、厚くして透明の細點がある。三、四月頃葉腋に淡黄色の短梗花を開く、花瓣は萼と區別し難く細長くして香氣に富み、果實は風車狀に集まる。

產地 常陸、若松、大山、横須賀、淺間、大島、周防、九州、臺灣。
成分 結晶性シキミン。
所在 枝葉、根皮、花、實、殊に果實。
症狀 嘔吐、癲癇様痙攣、瞳孔散大、致死。

荳 科 Leguminosae.

62、クララ (クサエンジユ、キツネノササゲ) Sophora flavescens, Ait.



形態 山野、河原の堤防等に多く生ずる宿根草で、叢生し、莖高四、五尺、時として六尺以上に達す、葉は多数の小葉よりなる奇數羽狀複葉にして互生し頗る槐の葉に類してゐる。六、七月頃、上に淡黄色の蛾形花を總狀に綴り細長

い莢を結ぶ。

産地 四國、九州、琉球、臺灣。

成分 アルカロイド、マトリン。

所在 草體。

症狀、動物共に不詳。

63、**エンジュ** (槐) *Sophora japonica*, L.



(ユジンエ)

形態 通常庭園に植へる落葉喬木にして、高

さ二、三丈に達し葉は羽狀複葉にして小葉は長卵圓形をなし先端稍尖る、初夏梢上に大なる圓錐花序をなし、黄白色の蛾形花を開き果實は連珠狀の莢果である。

産地 四國。

成分 ルチンに似たるものである。

所在 總ての部分。

症狀 刺戟。

動物 馬。

64、**ニセアカシア** (ハリエンジュ、ユドアカシア) *Robinia pseudacacia*, L.



(ヤシカアセニ)

形態 維新後の舶來樹にして高さ四、五尺に

達し、落葉喬木で枝幹に多くの刺を有し葉は一回羽狀複葉なれどもイヌエンジュ、エンジュよりも大にして、葉質薄く光澤を有す、初夏花を總狀若くは複總狀花序に開く、白色にして後莢

果を結ぶ。

産地 栽培、街路樹ともなす。

成分 ノイクレオ・ブラライド、グリコシード、ロビン又はロピチン。
所在 樹皮、葉、花。

症 狀 呼吸困難、露出粘膜充血、流涎、落涙、鼻漏、疝痛、後軀踴躍、排糞頻々、下痢、痙攣、倦怠、麻痺、致死。剖検するに肺の氣腫及出血、血液凝固不全、時に消化器出血及び内容變化。

動物 馬、牛。



(キサクコ)

芸 香 (ヘンルウダ) 科 Rutaceae.
65、コクサギ (サウルシ) *Orixia japonica*,
Thunb.

形 態 吾國暖地の山野に普通なる落葉灌木である、葉は互生楕圓形又は倒卵形にして光澤を有し惡臭あり全邊にて短柄あり、四、五月頃黃綠白色の四瓣より成り、總狀花序

にして基脚に鱗片を具へてゐる。

產地 米澤、日光、妙義山、秩父、東京、青梅、周防、石槌山、九州、對島。
成分 ベルベリンを含むと言ふ。
所在 全部。
症 狀 嘔吐、眩暈。

66、シヤマンキミ *Skimmia japonica*, Thunb.



(ミキシマヤミ)

形 態 比較的常綠灌木にして莖の高さは概ね三、四尺で、葉は革質長楕圓形で通常全邊である。シキミの葉に稍似てゐる、卷頂に白色の小花を、莖枝の頂に圓錐花蓋をなして綴る、花は四瓣で四本の♂蓋と一本の♀蓋とを有し果實は球狀の小核果である。

產地 殆ど全国の深山。
成分 アルカロイド、スキミアニス (C₁₅H₂₅N₃O₂)
所在 果實。

症狀、動物、不詳。



(バイスメヒ)

蓼 (タデ) 科 Polygonaceae.
67、ヒメスイバ及スカンボスイバ (酸模)

Rumex acetosella, L. n. *acetosa*, L.

形態 山野路傍に普通で莖葉赤味を帯び莖身の基部は箭形をなせる草本で酸味を帯び、丈二尺許に達し、♀♂異株にして共に穂状をなし花被は三萼片三花瓣よりなり♀花は鈍稜形の子房を有し、♂花は六雄蕊を有す、一種ヒメスイバは葉莖共に小にして高さ七、八寸である。

產地 北海道、羽前、東京、横須賀、上野、白馬山、豊津、長崎、對島、琉

球、臺灣。

成分 蓼酸鹽類、主として加里。

所在 草體。

症狀 胃腸炎、下痢、麻痺。

動物 馬、羊、牛。

68、ハルタデ (サナエタデ)

Polygonum persicaria, L.



(デタルハ)

形態 蓼類中最も早く開花するもので、早春莖を出す、高さ尺餘、葉は稍狭長で其面には一黒斑あり、氣背に微白毛あり、五月頃、莖端、枝梢に短穂をなして白質に微紅を帯べる小花を

攢簇する、籜の上部に毛がないのと花期の早いのは此の草本の特徴とするところである。

産地 赤羽、横須賀、三田尻、備中、土佐、臺灣。

成分 ポリゴニン酸。

所在 種子。

症 状 胃及膀胱の炎症、失神、痙攣、踳踳、麻痺。

動物 豚、羊。

菊科 Compositae.

69、ヤグルマギク *Centaurea cyanus*, L.

形態 莖の高さ三尺許、葉は長披針形で淡緑である。夏より秋に淡紅紫紅の花を開く、花形



(クギマルグヤ)

は矢車状をなしてゐる。

産地 栽培。
成分 不詳。
所在 草體。
症 状 後軀麻痺。

動物 牛。

楊柳 (ヤナギ) 科 Salicaceae.

70、デロ (ドロノキ、キワタ、カドロ、ワタノキ)

Populus balsamifera, L.

形態 落葉喬木にして幹高五、六丈、周六、七尺に達し樹皮帯褐色で深い裂目があり、葉の

長さ二、三寸、幅二寸許、上面緑色平滑、下面

淡紫黒色で葉柄は帯白色、長さ一寸、小さい托葉がある。♀♂は異株である。



產地 札幌、函館、羽前、白山、日光。
成分 サリシン？、クリシン？
所在 葉。
症状 疝痛、下痢。

罌粟 (ケシ) 科 Papaveraceae.

71、クサノワウ *Chelidonium majus*, L.



(ウラボサク)

形態 路傍竹蔭或は柵墻の下などの陰地を好んで生長する、莖長一、二尺、葉深裂あるも、羽状複葉で下面白色を帯び微毛あり、花は繖形花叢をなし十字形をなせる四瓣よりなるを以て一見十字科の如く見ゆるも、蓋多数なると萼二枚あるによつて異なる。果實は蒴果を結び線形平滑に瓣花を以て基脚より上方に裂

開する。種子は小突起を臍に有す、莖葉を断てば黄褐色にして辛味のある液汁を出す。

產地 日光、會津、東京、横須賀、善光寺、河内、備中、豊前、長崎、對島、琉球。

成分 アルカロイド、オピウム (乾燥しても毒力がある)、アルカロイド、シエリドニンフ又はシエリトリン。

所在 草體液汁中にはオピウム二〇—二五%を含み、之をモルフィン屬とババベリン屬に分つ、果實殻にはチトロンとモルファンとナルコチン含有する。葉は毒力僅少で花の縁頭に最も多いと言ふ。根、樹皮にもある。

作用 皮膚及粘膜炎を刺戟發熱せしめ、食すれば嘔吐、疝痛、大下痢、多尿を起し同時に搐搦、反射機能障害、知覺鈍麻、心臟及呼吸麻痺を來す。

動物 馬、牛、羊。



(シケ)

72、ケシ *Papaver somniferum*, L.
形 態 葉は大にして縁邊に欠刻あり、葉柄を
缺き、莖高四—五尺に達す、大輪美麗なる四瓣
花を開く、多[△]葇と圓形の♀葇とを有し、其の
花色及び花形は種々である。

産 地 栽培。

症 狀 狂躁、痙攣、催眠、胃炎。

動 物 馬、牛、羊、豚。



(シゲナヒ)

73、ヒナゲシ (虞美人草) *Papaver rhoeas*, L.
形 態 全形ケシより小にして葉の欠刻深く、
莖及萼に刺毛を有す。

産 地 栽培。

成分、所在、症状、動物、前者に同じ。



(シマケブヤ)

74、ヤブケマン (ムラサキケマン、ヤブゼリ)

Corydalis imbricata, Pers.

形 態 路傍樹下等の稍陰濕の地に生ずる宿根
草である。秋月古根より叢生し春に至りて莖を
起すこと數寸乃至一尺餘に達して花あり莖は縦
に稜條を存し其色淡紅紫を呈し互生二、三回羽

狀に分裂して稍セリの葉に類似し、又胡蘿蔔の葉にも類してゐる。花は不整齋、
紅紫色にして隔あり、四、五月頃多く集つて二、三寸總狀花序を作る。

産 地 北海道、東京、日光、横須賀、横濱、天城山、大島、周防、九州、琉
球、對馬。

成 分 不詳。

所在 葉莖の惡臭ある液汁中にある。
症狀 逆吐、疝痛、凝視、瞳孔散大、知覺鈍麻、蹣跚、麻痺。
動物 馬。

75、キケマン (ウバコロシ) *Corydalis platycarpa*, Makino.



(シマケキ)

形態 路傍樹陰垣砌等の間に生ずる宿根草

である。莖長一—二尺、地に匍ひて叢生す

る、葉は二、三回羽狀に分裂する、花は四、

五月頃最も盛んであるが、暖地にては四季枯

るゝことがない。隨時開花を見ることがあり、

花は黄色不整齋にして總狀花序に排列し、其

の一花瓣は長い隔を有すること前者に異ならない。

產地 下田、長崎、琉球、八重山、臺灣。

其他前者に同じ。

76、シヤマキケマン *Corydalis pallida*, Pers.

形態 深山に自生する宿根草にして莖高

二尺に達す、五、六月頃枝梢に總狀をなし

て黄花を綴る、概形キケマンに類似すと雖

も、この種の葉は其根生葉の外は缺刻頗る

繊細にして花も亦稍小である。

產地 殆ど全國に汎布する。

其他前者に同じ。

77、タケニグサ (チャンバギク)

Maclaya cordata, R. Br.

形態 普く山野に自生する宿根草にして



(サグニケタ)



(シヤマキケマン)

莖は通常五尺に伸び帯黄色の液汁を含む、葉は大なる卵状心形にして缺刻を有し長柄により互生する。夏秋の頃莖頂分起して白質帯褐の小花を円錐花序に排列する。花後鞘形の扁平蒴を結ぶ。

産地 殆ど全国に汎布してゐる。

成分 不詳。

所在 葉莖の液汁に毒を含む。

症状、動物、前者に同じ。

黄楊(ツゲ)科 Buxaceae.

78、アサマツゲ(ツゲ) *Buxus sempervirens*, L.

Var. Japonica, Makino.



(ゲツマサア)

形態 暖國の山地に自生する常緑の小灌木である。幹は一丈に達するものあり葉は對生し、草質は

全邊通常楕円形で、春に細花を枝頂葉心に簇生し、淡黄色にして豆粒大の果實を結ぶ。

産地 日光、秩父、土佐、臺灣。

所在 葉及び樹皮。

成分 アルカロイド、ブキシニン。

症状 眩暈、聾、搐搦、胃腸炎。

動物 馬(一五ポンドで致死)、牛、豚。

薔薇(イバラ)科 Rosaceae.

79、モモ *Amygdalus*, S. *Prunus persica*.

形態、産地 省略す。

成分 アミグダリン、就中青酸。

所在 葉、花、樹皮、果實。

症 狀 前者に同じ。
動 物 牛。

80、スモモ *Prunus triflora*, Roxb.

形態、産地 省略す。

成 分 アミグダリン。

所 在 幼芽及び果實の核にして、後者はアミグダリン一〇・九六%を有す。

症 狀 前者に同じ。

動 物 豚。

81、スミセイヤウミザクラ (ミザクラ) *Prunus cerasus*, L. n. *avium*.

形 態 近年吾國に栽培さるゝ落葉喬木である、幹長一―二丈にして概形櫻に似る楕円形の葉を互生し、邊緣鋸齒を有す。四月中頃繖房狀に開花し白色にして稍小さく甚だ大ならず、果實は長柄により下垂し長徑四、五分に達す。

産 地 栽培。

成 分 青酸。

所 在 核。

症 狀 前者に同じ。

動 物 豚。

82、エゾウワミズザクラ *Prunus padus*, L.



(ラクザズミロウゾエ)

形 態 落葉喬木にして概形ウハミヅザクラに似て樹幹四乃至五丈に達し、葉は倒卵円形にして先端尖鋭で縁邊に微細なる鋸齒を有す初夏枝梢に總狀の花序を開き白色にして疎である。

産 地 北海道。

成分 グリコリド、ラウロセラシン。
所在 葉、花、樹皮、果實。
症 狀 踰跟轉倒、強直、痙攣、瞳孔散大、呼吸筋の痙攣、一般麻痺。
動物 牛。



(ナシラカ)

83、カラシ *Sinapis arvensis*.

84、白カラシ *Sinapis alba*.

85、カラシナ *Brassica cernua*, Hemsl.

形態、産地 省略す。

成分 ミロシン、カリウム。

所在 種子、ミロシンは四—五%
症 狀 消化器の炎症(流涎、疝痛、下痢)、

動物 馬、牛、羊、豚。

86、エリスノシロ(キタミハタザオ) *Erysimum japonicum*, Makino.



(ロシズソエ)

形態 本邦北部に産する草本にして莖高一—二尺、葉は線状形或は披針形で無柄である。莖葉共に微毛を生じてゐる。七、八月頃に總状の花序をなして黄色の十字花を開く。

産地 北海道、北見地方。

成分 多分エリシミンであらう。
所在 種子と草體。
症 狀 前者に同じ。
動物 牛、(鴛鳥)。

87、ハマダイコン (ノダイコン、コイネ) *Raphanus raphanistrum*.
ダイコン (アカダイコン、カラスダイコン) *Raphanus sativus*, L.



(シヨイダ)

形態、産地、省略す。

成分 ヘーデリツヒ油及びミロシン。

所在 皮及び根、種子にはヘーデリツヒ油

三〇—四〇%を有す。

症状 前者に同じ。

動物 馬。

88、カブ *Brassica rapa*, L.

形態、産地、省略す。

成分 シナルビン、普通芥子油、シニグリン。

所在 草體(花)、種子にはミロシンを認めると云ふ。

症状 胃腸炎症、腎臓刺戟。

動物 牛 (特別飼養の場合に發す)。

蘿摩 (カガイモ) 科 *Asclepidaceae*.

89、イケマ (生馬) *Cynanchum caudatum*, Maxim.



(マケイ)

形態 山地に自生する多年生の纏繞草にして草

は心臟形をなし對生する。夏日葉腋に細葉を抽く

こと二、三寸、外花を繖形に排列する。それは白

色で花後に細長い蒴を結び秋日自ら裂けて白絮を

飛散する。

産地 札幌、石狩、陸奥、羽前、岩城、下野、

伊豫、土佐、阿波。

成分 配糖體のアスクレピアジン、又、近代の研究によればブインセトキシシン

と云ふ。

所在根。

症 狀 腎及び膀胱の炎症。

動物 牛、羊。

夾竹桃科 *Apocynaceae*.

90、ケフチクタクウ *Nerium odoratum, T. alander.*



(ウメクチフケ)

形 態 常緑灌木にして、高さ一丈余に達す、

葉は革質にして厚く披針形をなし、輪生又は對生す、盛夏より初秋にわたり梢稍々紅色又は白色の美花を總狀に排列する。

産 地 臺灣。

成 分 配糖体のオレインドリン 又はネリイ

ン。

所 在 樹皮、次ぎに木質及び葉にして、花は僅少、樹皮にはロサギニンとネリンを含む。

症 狀 デギタリス中毒に同じである。

動物 馬、牛。

太戟 (タカトウタイ) 科 *Euphorbiaceae*.

91、ホルトサウ (トゲヌキ)

Euphorbia lathyris, L.

形 態 越年草にして舶來品である、莖高三尺許で卵狀三角形披針形の莖を對生し或は梢上に四葉を出す、葉背及び葉は類白色を呈す、夏四瓣黃紫色の小花を梢頭葉腋に開く、果實は黒褐色扁球形



(ウサトルホ)

にして三條の溝を有す。

產地 栽培。

成分 苛烈性成分及び種子油。

所在 種子及び液汁中。

症状 皮膚及び粘膜を刺戟する。口内炎、胃腸炎を發し、食慾消失、流涎、疝痛、便秘、赤痢様下痢、心悸亢進、脈搏細速、眩暈、踰躑、痙攣等。

動物 牛、羊。



(サゲイダウト)

92、トウダイグサ (燈臺草、スゞフリバナ)

Euphorbia helioscopia, L.

形態 原野濕卑の地に自生する二年草にして冬

月苗を發し春に至り一根數莖を出すこと六、七寸

より二尺許に達する、倒卵形の葉を互生し形稍ミスベリヒンに似てゐる、五月頃

莖頂に五葉を生じ五枝を分ちて小花をつける。淡黄褐色である。

產地 秩父、長野、對馬、琉球。

成分 苛烈性成分。

所在 草体及び乳汁中。

其他前者に同じ(三ポンド以下の採食には無毒である)

93、ヤマアヒ *Mercurialis leucarpa*, S. et Z.

形態 陰地に生ずる常綠草本である。高さ一

二尺に達し葉は對生にして長柄をそなへ橢圓形を

呈す、初夏花を穂上に綴り♀♂異株又は同株であ

る。花は黄綠色を呈す。



(エアマヤ)

產地 東京、紀伊、周防、日向、筑前、豊前、琉球。

成分 マーキユリアリン。

所在 前者に同じ。
 症 狀 胃腸炎 腎炎 食欲消失、疝痛、便秘又は下痢、多尿、血尿、腰強硬、歩行困難、呼吸疾速、脈搏頻數等。
 動物 馬、牛、羊、山羊、豚。



94、ニシキソフ (チ、グサ) *Euphorbia humifusa*, Willd.
 形 態 路傍庭園に生ずる小草本である。根際より多枝に別れ地に敷きて平臥する。葉は楕圓形にして小さく對生する。夏秋の候各葉腋に小花を開く。其色黄褐色を呈してゐる。

産 地 東京、周防、土佐。

成分、所在、症狀、トウダイグサに同じ。

95、ナツトウダイ *Euphorbia sieboldiana*, Morr. et Dene.



形 態 山野に自生する宿根草である。莖高一尺許、葉は長楕圓形又は篋形にして全邊である。花の下葉非常に大にして總苞の腺は四個の鈎狀に尖る、四、五月頃開花し褐色にして果實は滑かである。

産 地 札幌、國分寺、東京、上板橋、大山、信濃、羽前、伊豆大島。

所在、成分、症狀、動物、ホルトサウに同じである。



96、タカトウダイ *Euphorbia pekinensis*, Rupr.
 形 態 山野に自生する宿根草である。莖高二三尺、葉は長楕圓形の披針形で、細鋸齒を有し、下花の葉は大きくない。七、八月頃褐色の花が咲く、果實は鈎狀の突起を有す。

產地 箱根、大峰山、戸隠、淺間山、東京、伊吹山、土佐、安藝山。
成分 所在、症狀 動物、前者に同じ。

97、ハス *Croton tiglium*, L.

形態 東印度原産の常緑灌木にして幹高一丈許に達す、今は臺灣及び他の熱帯地方にも栽培せられる、葉は長楕圓形にして尖り其の脚に二個密脾あり、光澤を有し邊緣に鋸齒あり、花は細小にして綠色を呈し上部に♂花、下部に♀花集りて總狀花序をなす、果實は三房性蒴果にして乾燥すれば裂開して種子を生ずる。

產地 栽培。

成分 リシニン。

所在 種子。

症狀 出血性腸炎、下痢。

動物 馬、牛。

98、タウゴマ (蓖麻) *Ricinus communis*, L.

形態 アフリカの原産で莖高六―七尺あり、空洞竹の如くである。葉は大形にして掌狀分裂し楯枕をなし長柄によりて互生する。花は單性して圓錐花序をなす、夏秋の頃に開く、♀花は淡黄色の花柱を有し、♂花は淡黄色を呈す、果實は裂果にして蒴皮に刺を有し内に黒い斑紋ある種子を持つてゐる。

產地 栽培。

成分 リシン及びリシニン。

所在 種子。

症狀、動物、ホルトサウに同じ。

田麻 (シナノキ) 科 *Tiliaceae*.

99、ツナソ (イチビ、カナビキオ、黄麻)

Corchorus copularis, L.



(ソ ナ ツ)

形 態 畑に栽培せる一年生草本である。莖高二―三尺に達す、平滑植物である。葉は卵状披針形にして尖り邊緣に鋸齒を有し通常基部に細長い一隻の付屬物を突出する、托葉は長錐形をしてゐる。夏秋の候葉腋に一、二個宛の無柄果を生ず、黄色の五瓣花にして形は小さく、蒴は稍々球状をなす。

産 地 佐賀、福岡。

成 分 配糖体コルコリン。

所 在 種子、約三、四%。

症 狀 流涎、戦慄、沈衰、呼吸困難、後軀麻痺、痙攣搐搦、致死。

動 物 牛、馬。

一位(いちえ)科 Taxaceae.

100、水松(アララギ)一位 *Taxus baccata*, n. *T. cuspidata*. S. et Z.

形 態 寒温兩帯に生ずる常緑喬木にして葉は細長く尖端にして長さ六―七分、

巾一分許り、上面濃綠色にして下面淡綠色である。四月頃種子を結ぶ。



(ギララア)

産 地 樺太、北海道、陸中、陸奥、下野。

成 分 アルカロイド、タクシン及び蟻酸、

刺戟性樹脂。

所 在 果實及び葉にはタクシン一〇―一八

%を含有する。

症 狀 騒擾、無意識、流涎(牛)、嘔吐(豚)、排尿歇止(馬)、痙攣、強直、呼吸

筋麻痺。剖檢により胃腸炎を認める。

動 物 馬は針葉一〇―一三〇瓦で致死、騾及牛は五〇〇瓦にて致死、羊も侵される。

松 杉(マツ)科 Pinaceae.

101、ネズミサシ(ムロ、ムロマツ、ネツ、ヒムロ) *Juniperus rigida*, Seib et Zucc.



(シサミヅネ)

形態 山地に自生する常緑喬木にして高さ六丈、廻り四、五尺に達す、枝は三角

針状をなし節多く古節に三個の針葉を輪生してゐる。針葉は細長で六—一〇分に達する。

産地 北見、日光、總州、越中、濱松、京都、伊勢、紀伊、大和、周防、攝津。

成分 揮發性油。
所在 葉。

症狀 消化器粘膜炎、泌乳乾涸。

動物 山羊。

102、柏、縦、松 *Pinus silvestris*, *Abies olba*, *Picea excelsa*.

形態、産地、省略す。

成分 揮發性油。

所在 針葉。

症狀 消化器並に腎臓刺戟及び炎症。

動物 馬。

木賊(トクサ)科 *Equisetaceae*.

103、スギナ、イヌスギナ、フサスギナ *Equisetum arvense*, *L. Palmstre*, *L.*

Silbverticum, *L.*



(ナギス)

形態 前者は早春原頭路傍に、後者は

沼澤に松葉状に節莖を有して發生する、

地下莖は所々に球状体を有し養分を貯ふ

産地 各地に汎布する。

成分 アルカロイド、イクイセチン。イヌスギナ最も有毒で他は甚だしくない。

所在 全部。

症 狀 興奮、恐怖、踏踉、後軀の麻痺、失神昏睡、慢性の食欲不進、悪疫質。
動 物 馬、羊、牛。ダンコン氏は曰く「羊は感受せず」と。

水 骨 龍 (ウラボシ) 科 Polypodiaceae.

104、ワラビ (蕨) *Pteridium aquilinum*, Kuhn.

形態 産地 略す。

成 分 プテリアナス酸。

所 在 葉。

症 狀 長期多量に與ふれば恐怖、瞳孔散大、痙攣、搐搦を起す、剖検するに小
腦、延髄に於ける腦膜炎を認める。

動 物 馬。

終りに本書挿入の圖は大部分に互り、山内繁雄博士著「圖解植物名鑑」より轉載し
たことを明記し同博士に遙に敬意を表するものである。

昭和十三年十月一日 印刷
昭和十三年十月五日 發行

(有毒植物)

定價六十錢

著 者 飯塚安喜雄

發行者 田邊一雄

印刷者 五島林太郎

東京帝國大學農學部獸醫科
東京市中野區新井町三三六



發行所

東京帝國大學
農學部獸醫科内

社 團
法 人

中 央 獸 醫 會

終

